

当院の NTM 外来について

【はじめに】

NTM は非結核性抗酸菌（Non Tuberculosis Mycobacterium）という細菌の略です。「抗酸菌」という細菌のグループのうち、かつて多くの感染者を出していた「結核菌」と「らい菌」を除いた菌を総称して NTM と呼んでいます。近年、日本では NTM が肺に病巣を生じる、「肺 NTM 症」が増加しています。日本では肺 NTM 症のうち、9 割近くを、Mycobacterium avium complex（MAC）によるものが占めています。

【肺 NTM 症の特徴】

- ✓ 結核と異なり、ヒトからヒトにうつりません。
- ✓ 長い経過でゆっくりと進行します。治療を要さないこともあります。肺が荒廃して呼吸不全をきたすこともあります。
- ✓ 診断には喀痰検査、気管支鏡検査が必要です。
- ✓ 治療の基本は複数種類の薬剤を長期間服用することです。原因菌種によって治療法が異なります。
- ✓ 手術を要することもあります。
- ✓ 慢性期になると真菌症などの他の感染症を合併することがあります。

【当院の NTM 外来について】

NTM 症は一般的な呼吸器感染症と性格が大きく異なるため、診断、治療には専門的な知識や経験が必要とされます。しかし、NTM 症を専門的に診療している医療機関は全国的にも少ないのが現状です。

吉島病院（当院）は、現在まで結核病院としての歴史を有することから、結核と同じ抗酸菌症である NTM 症の診療に関して、豊富な診療経験を有しており、結核・非結核性抗酸菌症学会が認定する専門医・指導医が所属しています。当院の診療経験を活かして難治性の肺 NTM 症に特化した専門外来を開設しています。

2021 年には難治性 MAC 症患者さんに対して、新たにアミカシン吸入療法が認可され、当院でも適応症例に処方を開始しています。治療を必要とする患者さんがその機会を失うことのないよう、当院がお力になればと考えています。

【注意点】

1. 完全予約制

NTM 外来は完全予約制です。かかりつけ医に診療情報提供書を作成していただき、当院地域連携室を通じて予約を取得してもらってください。患者さんの病状によっては受診をお断りする場合があります。

2. 受診対象外の患者さんについて

NTM 症であっても、以下に該当する患者さんはお近くの医療機関で対応していただくことが望ましいと考えます。

- 1) 検査や薬物治療に耐える全身状態にない。
- 2) 理解力が不十分・内服薬管理が困難。
- 3) 積極的な治療を希望されていない。

受診対象か対象外かの判断に迷われる場合もあるかと思います。当院地域連携室にご相談ください。

3. 逆紹介について

当外来に紹介受診の後、必ずしも当院で継続加療となるわけではありません。特にご自宅が当院から遠いなどの理由で通院が困難な患者さんは、治療方針の決定後、紹介医あるいは自宅近くの呼吸器内科へご紹介いたします。

【臨床研究について】

当院は NTM 診療の質の向上を目的として、診療した患者さんの診療記録を臨床研究に使用させていただくことがあります。成果を学会や学術誌などで発表・報告することがありますが、患者さんが特定されないよう、匿名性に配慮します。また、収集した情報が外部へ漏洩しないよう、十分な防止策を講じています。

国家公務員共済組合連合会 吉島病院
病院長 山岡直樹
呼吸器センター長 池上靖彦
呼吸器内科医長 吉岡宏治
呼吸器内視鏡医長 尾下豪人